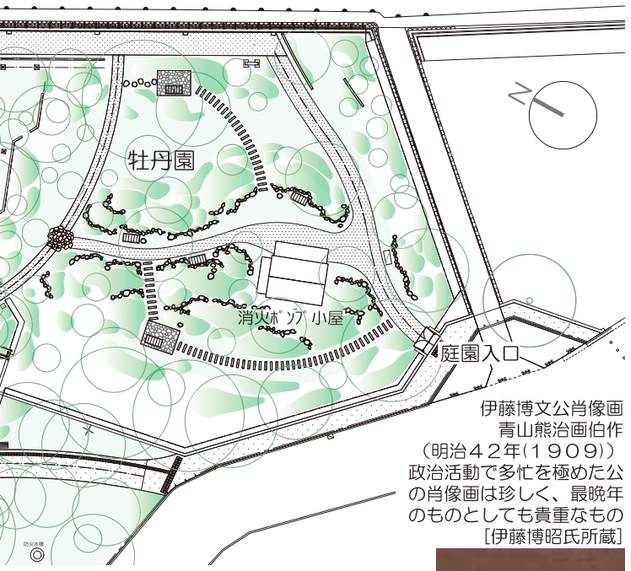
絵葉書
乙舳の帰帆
伊藤公の別邸
横須賀鎮守府第三号ノ三
大正十四年（1925）二月
二十五日検閲済
東京湾要塞司令部地４１
第十七号
［楠山永雄氏所蔵］

客間棟・居間棟を南東より見る



伊藤博文公肖像画
青山熊治画伯作
（明治４２年（１９０９））
政治活動で多忙を極めた公の肖像画は珍しく、最晩年のものとしても貴重なもの
［伊藤博昭氏所蔵］

伊藤博文公について

伊藤博文公は天保１２年（１８４１）周防国（山口県）にて農民の林十蔵・琴子夫妻の長男として生まれ、幼名を利助といいました。利助が１２歳の時、父十蔵が萩藩の中間伊藤直右衛門の養子となり以降伊藤姓を名乗るようになります。

安政４年（１８５７）に松下村塾に入り吉田松陰に学び、桂小五郎や高杉晋作、井上馨や山縣有朋らと倒幕運動に奔走します。

維新後は、政府の近代化政策の中心的役割を担い、明治18年（１８８５）弱冠４４歳で初代内閣総理大臣に就任しました。４度の内閣組閣と枢密院議長、初代韓国統監を経て、明治４０年（１９０７）公爵を授与されています。

明治42年（１９０９）１０月２６日、中国黒龍江省のハルピン駅で６８歳の生涯を閉じました。

交通案内

京浜東北・根岸線「新杉田駅」、京浜急行線「金沢八景駅」より
シーサイドライン　「野島公園駅」　下車　徒歩5分
※駐車場は大変混雑しますので、公共交通機関をご利用ください。

ご利用案内

〇休館日

通　常	毎月第1・第3月曜日（祝日の場合は開館・翌平日休館）
４月～５月	無休
12月～1月	毎週月曜日（祝日の場合は開館・翌平日休館） １２月２９日～１月３日

〇開館時間

通　常	９時３０分～１６時３０分
４月～５月	９時３０分～１７時３０分

お問い合わせ先

旧伊藤博文金沢別邸　Tel ０４５-７８８-１９１９
野島公園事業所　Tel ０４５-７８１-８１４６
〒236-0025　横浜市金沢区野島町２４

ホームページ

（公財）横浜市緑の協会
野島公園旧伊藤博文金沢別邸公式ホームページ
http://www.hama-midorinokyokai.or.jp/park/nojima

野島公園旧伊藤博文金沢別邸リーフレット
２００９年１０月発行
２０２４年 ３ 月改訂
製作・発行：公益財団法人 横浜市緑の協会
デザイン：株式会社　建文
写　真：株式会社　建文＋濱覚写真事務所

野島公園

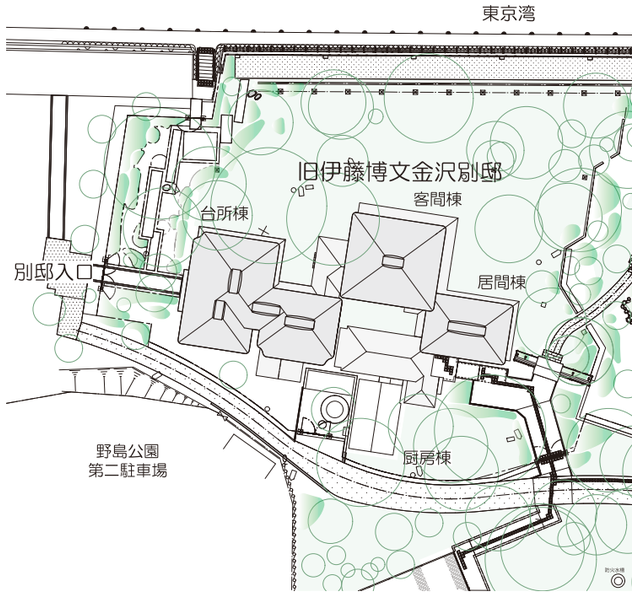
横浜市指定有形文化財

旧伊藤博文金沢別邸

指定管理者　公益財団法人 横浜市緑の協会 Yokohama Greenery Foundation

昭和３７年（１９６２）に解体撤去された台所棟玄関の外観写真
［横浜市所蔵］

建物手前に「明治憲法草創記念碑」が置かれていたが、近年になって洲崎交差点に近い東屋跡地付近に移設された。



明治期の茅葺屋根海浜別荘建築

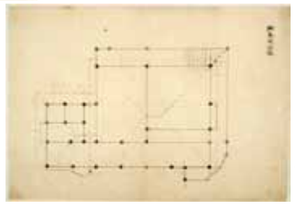
旧伊藤博文金沢別邸は、初代内閣総理大臣を務めた伊藤博文公により、明治３１年（１８９８）に建てられた茅葺寄棟屋根の田舎風海浜別荘建築です。

明治期、富岡などの金沢近辺は東京近郊の海浜別荘地として注目され、松方正義や井上馨などが別荘を設けました。その後大磯・葉山など湘南地方が別荘地として栄え、金沢はその役割を終えました。金沢別邸は、当時の別荘地の数少ない貴重な建築遺構です。

平成１８年（２００６）１１月横浜市指定有形文化財に指定されました。建物の老朽化が著しかったことから、平成１９年（２００７）解体工事・調査を行い、現存しない部分を含め創建時の姿に復元することになりました。平成２０年（２００８）６月より工事着手、平成２１年（２００９）１０月に庭園と併せて竣工しました。本施設は内外共ご自由に見学いただけます。

伊藤博文金沢別邸切図
［横浜開港資料館蔵］

客間・居間・湯殿・台所・玄関に分けられた古図面(年代不明)が、当時別邸を管理していた地元の旧家・松本家に保管されていました。



柱位置、間取、屋根形状を確認することができ、復元を行う上で貴重な資料でした。

博文邸牡丹園

かつて野島にあった永島家の牡丹園を復元したものです。「牡丹」は現在金沢区の花となっています。

赤坂仮皇居御会食所移築計画

［横浜開港資料館蔵］

明治39年(1906)、博文公は憲法草案の審議が行われた赤坂仮皇居御会食所を、既に建てられていた金沢別邸に接続して移築する計画をたてていました。御会食所と別邸を通路で繋ぐ計画が確認できます。結果的には、移築は実現しませんでしたが、明治憲法ゆかりの地・金沢に対する博文公の思いがうかがえます。

この案は、宮内省内匠寮の技師木子清敬が作成したものです

玄関正面
新築復元された台所棟玄関

玄関内部
小6畳の座敷を見る

台所
座り流しを見る

水屋　人造石研ぎ出し仕上のヘッツイ・立ち流し
(手前は大正時代の井戸ポンプ)

台所棟

(玄関)(台所)(水屋)

［玄関・台所・女中部屋が備わる棟］
別邸の玄関で、調理場・水屋などが設けられていました。来客時は、地元の割烹より仕出をとっていたそうです。

帰帆の間
客間棟より見る庭園

晴嵐の間から
帰帆の間の附け書院を見る

客用便所
本漆仕上の木製大便器・小便器

廊下9畳
1間巾の畳敷き廊下

客間棟

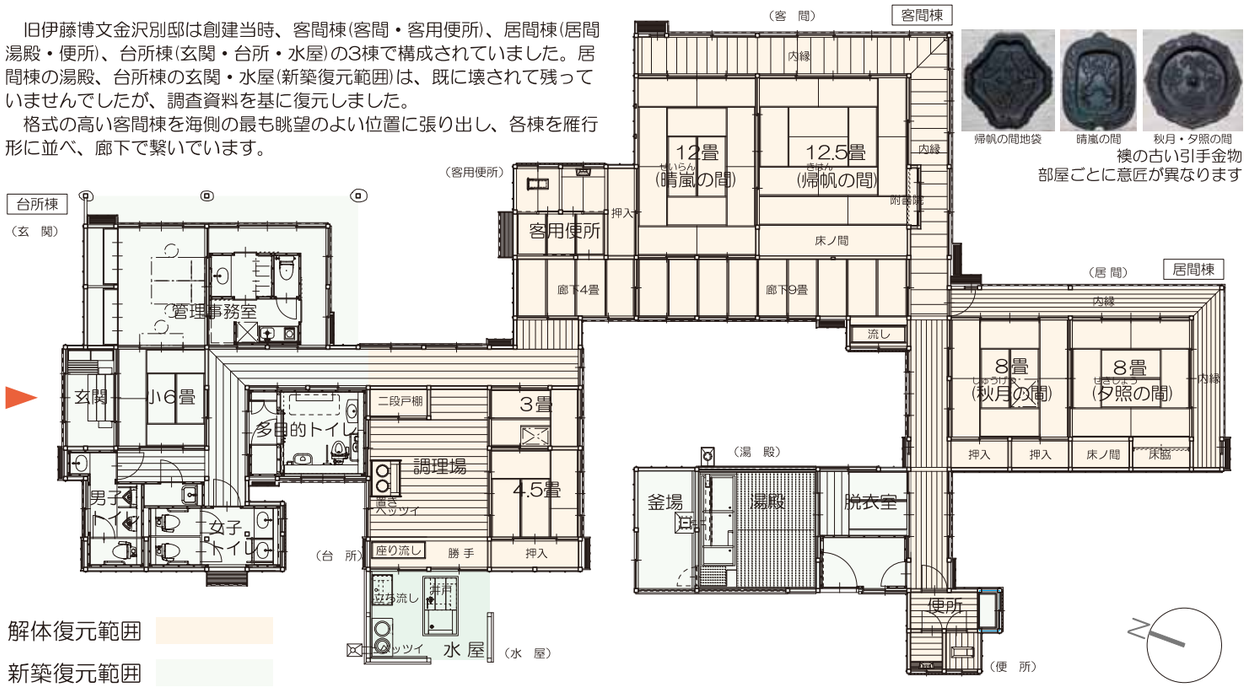
(客間)(客用便所)

［格式の高い客室］
博文公存命の時から、天皇、皇太子をはじめ、皇族の来邸があり、この客間棟で過ごされたと思われます。

旧伊藤博文金沢別邸は創建当時、客間棟(客間・客用便所)、居間棟(居間湯殿・便所)、台所棟(玄関・台所・水屋)の3棟で構成されていました。居間棟の湯殿、台所棟の玄関・水屋(新築復元範囲)は、既に壊されて残っていませんでしたが、調査資料を基に復元しました。

格式の高い客間棟を海側の最も眺望のよい位置に張り出し、各棟を雁行形に並べ、廊下で繋いでいます。

襖の古い引手金物
部屋ごとに意匠が異なります



庭園

野島の海岸に残る明治期の松を取り込んだ貴重な風景です。

海岸沿いには多くの灯篭が並び、その奥に玉垣が設けられていました。

博文公が来邸する時は船で来ていたとされ、灯篭の灯りを目印にしていたのでしょうか。

庭園より見る東京湾
古図面より復元された灯篭、玉垣

灯篭・玉垣の古図面［横浜開港資料館蔵］

建物周辺は至るところに明治期の松が植えられています。

雁行形の平面により、屋根(大屋根：茅葺)が入り組む、変化に富んだ外観意匠になっています。

客間棟(左奥:居間棟)

台所棟(左奥:客間棟)

居間棟

(居間)(湯殿)(便所)

［博文公の書斎・寝室等私的スペース］
日常の生活をする棟です。多忙な博文公にとって安らぎの場所が金沢別邸だったのでしょうか。

夕照の間
秋月の間を見る

湯殿
サワラ材の木製箱風呂

便所
木製大便器・小便器